

TDB 景気動向調査(全国・概要)

2006年7月調査

2006年8月7日

お問い合わせ先：株式会社帝国データバンク 産業調査部

電話：03-5775-3163 e-mail：keiki@mail.tdb.co.jp

http://www.tdb.co.jp/

景気動向調査専用HP http://www.tdb-di.com/

景気DIは46.0、前月比横ばいにとどまる

～ 高まる原油価格・金利の上昇リスクに対し企業業績の好調持続と強弱感が交錯 ～

(調査対象2万325社、有効回答企業9,852社、回答率48.5%)

2006年7月の景気動向指数(景気DI:0~100、50ポイントが判断の分かれ目)は、前月比横ばいの46.0となった。前月(6月)までの3カ月連続悪化に歯止めがかかったものの、改善までには至らなかった。

このところの景況感の悪化は、原油価格の再騰や株式市場の世界的な調整、ゼロ金利解除後の金利上昇懸念などによって、企業・家計心理に不透明感が増幅したことなどが背景にある。これによって景気DIは2006年3月(47.9)をピークに下落基調に転じ、前月(46.0)は今年最低水準となっていた。

7月に入ってから、北朝鮮のミサイル発射問題や中東情勢の緊迫化など地政学リスクの高まりが原油高に拍車をかけ、原油先物相場(WTI、期近)は一時1バレル=78ドル突破と最高値を更新。また、7月14日にゼロ金利が解除されたことで金利上昇リスクが一層高まったことや、梅雨明けの遅れや天候不順なども、幅広い業界の景況感を押し下げた。

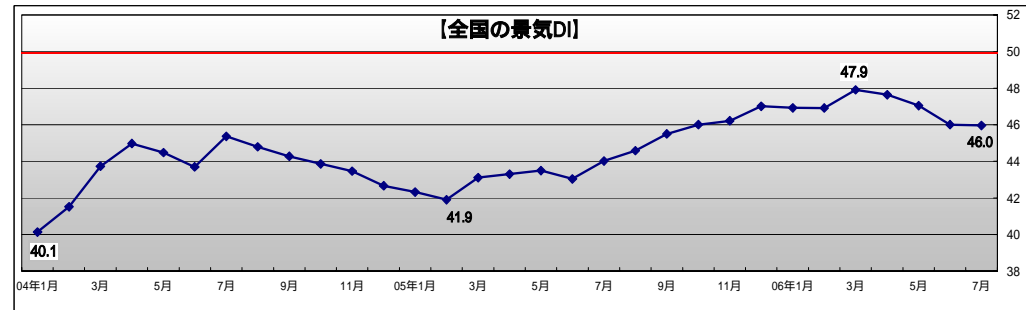
実際、「金融機関の貸出金利上昇がようやく回復してきた業績を直撃する」(鍛工品製造、東京都)や「長梅雨の影響で夏物が売れない」(婦人服小売、東京都)などの声が目立った。

これに対し、上場企業の堅調な第1四半期決算によって企業業績に対する過度な不安が後退したことや、それに伴って7月末にかけて株式市場が戻り基調をたどったことなどが、景況感悪化に歯止めをかける下支え役となった。

今後については、「3カ月後」の先行き見通しDIは前月と同水準を維持したものの、「6カ月後」と「1年後」は4カ月連続で悪化しており、依然として先行き不透明感は払拭されていない状況にある。

今回、金利上昇による国内経済への影響について尋ねた結果、6割以上の企業が追加利上げは国内景気を腰折れさせるとみており、金利上昇リスクの高まりが国内経済の先行き期待を萎縮させている一因となっている。また、原油価格の高値は依然として根強い。米経済の減速懸念や地政学リスクも高まっている。

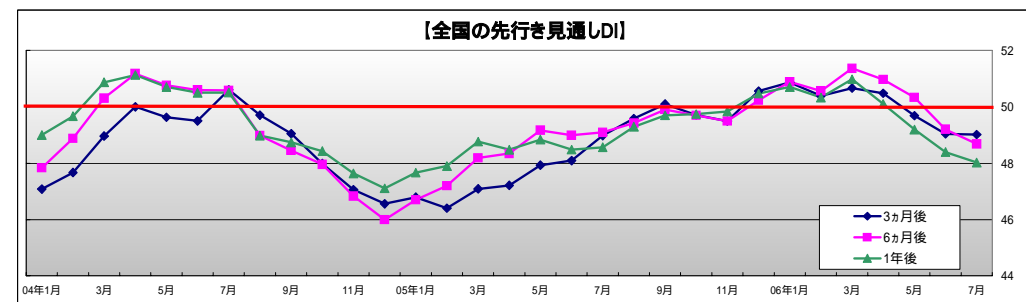
企業業績や経済統計が示すとおり国内経済は底堅く、しばらく景況感の下支えされるとみられるものの、こうしたリスクが内包している限り、強弱感の交錯する一進一退が続くものと思われる。



景気DI

(網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
全体	43.1	43.3	43.5	43.0	44.0	44.6	45.5	46.0	46.2	47.0	46.9	46.9	47.9	47.6	47.0	46.0	46.0	0.0



先行き見通しDI

(網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
3ヵ月後	47.1	47.2	47.9	48.1	49.0	49.6	50.1	49.7	49.5	50.6	50.9	50.4	50.7	50.5	49.7	49.0	49.0	0.0
6ヵ月後	48.2	48.3	49.2	49.0	49.1	49.4	49.9	49.7	49.5	50.2	50.9	50.6	51.4	51.0	50.3	49.2	48.7	0.5
1年後	48.8	48.5	48.8	48.5	48.6	49.3	49.7	49.7	49.8	50.5	50.7	50.3	51.0	50.1	49.2	48.4	48.0	0.4

調査開始は2002年5月

業界別:10 業界中 6 業界で前月比悪化、'製造'と'卸売'は前月水準を維持

業界別では、10 業界中で前月比改善したのは『建設』(39.6)、『不動産』(55.5)の2 業界のみで、『製造』(48.0)、『卸売』(45.2)がともに横ばい、その他 6 業界は悪化した。

『小売』(40.4)は、天候不順に見舞われた「繊維・繊維製品・服飾品」の大幅悪化が影響し、前月比 0.3 ポイント減と 4 カ月連続して悪化。『金融』(44.0)も、グレーゾン金利問題で特にノンバンク業界の景況感が悪化し、4 カ月連続の悪化となった。また、『運輸・倉庫』(45.7)は原油価格上昇に伴う燃料費負担増や改正道路交通法の施行による影響などで、3 カ月連続の悪化となった。

『製造』と『卸売』は、原油高や米経済の減速懸念などのマイナス要因があったものの、業績の好調持続や堅調な設備投資意欲を背景に景況感は下支えされ、ともに前月と同水準を維持した。

一方、『建設』と『不動産』は、今後のさらなる金利上昇を見据えてマンションなど住宅の駆け込み需要期待が高まり、ともに前月比改善に転じた。

『建設』と『不動産』は、今後のさらなる金利上昇を見据えてマンションなど住宅の駆け込み需要期待が高まり、ともに前月比改善に転じた。

業界別景況DI

(網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

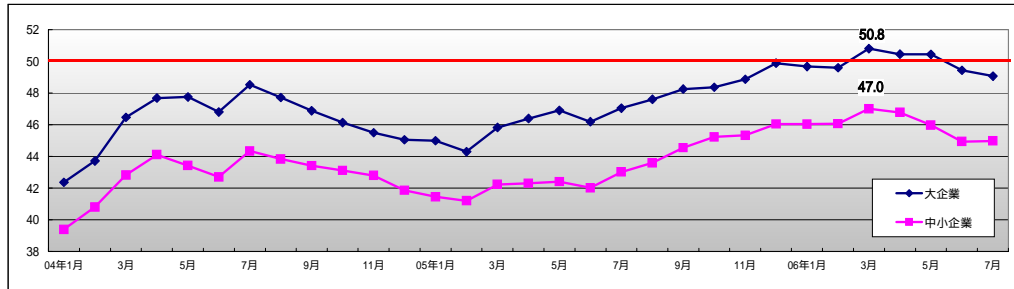
	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後	7月の標準偏差
農・林・水産	45.8	46.0	44.4	45.2	43.8	47.0	45.0	47.5	42.0	46.7	44.8	43.5	45.5	45.3	44.4	46.4	43.5	2.9	45.7	44.9	46.4	12.8
金融	42.6	42.6	43.2	44.5	44.0	44.2	45.6	46.2	46.3	47.9	46.7	46.5	49.2	48.0	45.6	44.8	44.0	0.8	48.2	46.9	45.8	17.3
建設	35.3	34.8	35.3	35.0	36.3	36.7	37.8	38.7	39.1	38.7	39.3	39.6	39.3	39.4	39.3	38.6	39.6	1.0	43.0	42.7	42.3	19.3
不動産	50.1	48.9	49.8	49.7	51.0	53.1	53.2	54.4	54.3	51.9	53.5	55.0	56.2	56.4	56.8	55.4	55.5	0.1	55.9	55.0	54.1	15.8
製造	48.9	40.5	40.7	40.5	40.9	40.5	41.8	42.2	40.8	42.8	41.0	41.7	42.6	43.2	43.1	41.6	40.9	0.7	45.2	45.9	47.5	15.1
卸売	37.9	37.8	36.6	38.0	39.5	39.3	39.0	39.3	38.2	43.1	42.9	43.9	43.4	43.8	41.3	42.0	42.2	0.2	46.4	47.4	47.4	14.8
小売	36.8	37.3	37.9	37.1	37.4	38.5	41.0	39.9	41.2	40.7	40.0	41.8	40.1	41.1	40.4	38.9	40.5	1.6	46.4	45.3	43.3	21.0
運輸・倉庫	41.7	42.4	41.4	39.5	40.0	42.0	42.3	42.1	43.1	44.1	41.3	40.9	43.9	43.5	42.9	41.5	42.0	0.5	46.7	47.2	48.3	16.3
サービス	39.7	41.3	39.1	39.9	38.8	40.0	41.0	41.5	40.7	41.5	40.0	41.7	44.6	44.3	43.0	41.3	39.3	2.0	44.1	45.8	46.6	16.3
その他	45.5	45.8	46.0	45.7	47.2	46.5	46.8	48.8	48.7	50.8	49.2	49.2	50.5	49.2	49.2	48.7	47.8	0.9	49.3	49.7	49.3	17.4
全体	46.8	45.4	46.6	45.1	45.5	47.7	49.9	49.7	50.7	50.8	50.7	50.8	51.3	50.6	49.0	49.8	49.8	0.0	53.0	51.3	50.1	19.2
製造	53.1	52.4	52.0	53.6	53.9	55.1	55.5	56.2	56.8	57.7	58.0	58.5	59.2	58.7	57.3	56.6	56.5	0.1	57.3	55.8	52.5	18.3
卸売	48.3	49.0	48.9	50.1	52.4	51.2	52.7	53.8	54.0	56.0	55.5	57.0	58.0	57.4	56.7	55.9	55.9	0.0	55.8	54.2	52.4	16.4
小売	54.6	52.2	53.6	53.3	55.5	55.8	57.6	56.4	57.6	56.4	58.7	57.8	59.1	57.7	57.1	57.8	58.9	1.1	58.2	56.3	52.6	17.9
運輸・倉庫	47.4	46.8	47.9	49.2	47.6	50.9	51.1	51.1	51.4	50.5	53.1	50.8	54.4	54.5	51.7	48.3	51.4	3.1	53.8	52.7	49.3	17.2
サービス	40.2	41.7	39.2	39.2	39.2	39.7	41.0	42.0	41.7	41.1	42.4	44.1	42.8	41.8	40.6	40.1	40.5	0.7	47.2	47.8	48.4	18.4
全体	44.7	44.8	44.8	44.8	45.7	46.2	47.3	47.8	48.0	48.0	48.4	49.1	50.0	49.8	48.7	48.0	48.0	0.0	50.8	50.3	49.3	17.4
製造	40.7	42.0	42.0	41.1	41.6	41.5	42.2	42.3	41.3	41.8	42.0	41.0	42.1	42.8	42.2	41.5	41.2	0.3	46.2	46.6	47.4	14.3
卸売	34.7	36.0	37.0	36.5	37.3	36.8	37.4	37.6	39.6	43.6	44.3	41.1	41.1	41.5	40.7	38.8	37.1	1.7	43.2	43.6	45.5	16.0
小売	36.1	37.4	37.8	36.9	38.3	37.2	38.8	40.6	40.5	41.2	40.0	40.2	39.3	39.1	40.1	40.2	39.3	0.1	45.3	44.8	44.5	18.0
運輸・倉庫	38.5	40.1	40.1	39.8	39.2	39.8	41.1	41.5	40.8	41.6	43.4	42.7	44.5	45.4	43.2	39.9	42.3	2.4	46.7	46.7	46.4	16.1
サービス	45.4	45.3	46.1	45.6	46.8	46.5	47.0	48.6	48.6	49.9	49.7	49.1	50.6	50.3	50.3	48.1	48.1	0.0	49.4	48.6	49.0	15.2
その他	65.8	64.9	58.8	50.0	47.8	57.8	57.1	52.8	55.2	56.0	52.6	56.0	60.0	62.8	62.5	62.2	57.7	4.5	53.8	52.6	50.0	18.0
全体	46.5	46.6	45.8	43.1	45.6	46.0	47.2	47.4	47.6	48.1	47.5	45.9	48.0	46.4	46.1	45.9	46.2	0.3	49.9	48.6	46.9	19.3
製造	46.4	46.9	47.0	46.5	47.3	48.3	49.3	49.6	50.1	51.4	51.3	52.0	53.2	52.6	51.7	49.9	50.2	0.3	51.7	50.5	48.8	17.8
卸売	41.4	41.7	42.0	42.0	43.2	43.6	44.3	44.6	44.2	45.0	46.1	44.1	46.2	45.1	45.2	43.7	43.7	0.0	48.4	48.3	49.0	16.4
小売	42.8	43.4	43.6	42.7	43.8	44.1	45.0	45.6	45.7	46.8	46.8	46.1	47.4	47.1	46.6	45.2	45.2	0.0	48.7	48.1	47.7	16.6
運輸・倉庫	42.3	43.7	44.8	44.6	45.3	45.7	44.9	44.4	44.1	46.2	45.3	44.9	49.0	46.4	45.2	45.0	44.5	0.5	49.9	50.2	51.0	19.2
サービス	36.6	37.1	37.2	40.4	45.3	44.7	43.4	46.5	46.8	51.6	50.8	46.3	49.2	45.7	41.9	42.2	40.8	1.4	45.4	46.7	47.5	15.1
その他	42.1	43.8	44.9	42.0	47.6	45.1	43.8	47.3	51.3	49.3	49.3	47.1	46.0	45.1	44.6	44.8	46.0	1.2	49.4	50.6	47.7	17.2
製造	39.7	38.9	34.3	43.8	45.1	38.9	41.7	43.3	42.9	43.6	42.2	44.9	47.8	48.9	46.0	42.7	41.7	1.0	45.8	47.2	48.6	19.1
卸売	45.1	43.5	45.3	44.0	45.1	43.3	45.0	46.4	49.3	46.9	49.3	48.3	48.1	49.2	48.0	43.8	45.2	1.4	50.3	53.1	51.0	16.6
小売	44.8	43.4	39.6	43.1	42.2	41.5	42.0	38.8	43.0	39.5	42.2	44.0	48.4	42.8	42.0	37.8	39.7	1.9	45.2	46.8	46.2	14.7
運輸・倉庫	34.3	35.8	36.3	35.9	38.3	38.2	36.9	36.0	37.6	39.3	38.3	38.5	41.2	39.4	38.0	35.6	33.7	1.9	36.7	40.2	41.4	17.3
サービス	40.6	40.9	44.7	42.7	44.4	44.7	45.6	44.0	45.9	50.2	49.1	49.4	48.0	47.1	47.3	44.4	44.4	0.0	48.3	49.0	49.5	15.6
全体	36.1	33.3	33.3	22.9	29.2	35.4	33.3	34.7	26.2	33.3	40.9	37.0	35.7	27.8	36.1	33.3	25.0	8.3	37.5	37.5	37.5	16.5
製造	39.6	40.0	40.5	40.6	42.7	42.0	41.8	41.7	43.4	44.7	44.7	43.9	45.8	43.9	42.7	40.7	40.4	0.3	44.7	46.5	46.7	16.5
卸売	45.2	45.3	45.5	43.0	44.0	44.4	45.7	45.9	46.0	49.0	48.0	47.0	49.0	49.5	48.0	46.2	45.7	0.5	48.5	48.0	48.0	18.0
小売	40.1	40.4	43.0	38.4	41.9	42.5	47.1	47.1	47.8	50.5	47.3	52.5	50.0	54.0	50.0	49.4	47.5	1.9	52.5	51.2	51.2	12.4
運輸・倉庫	58.3	50.0	53.1	55.2	56.0	55.6	50.0	57.3	52.4	52.6	53.8	50.5	55.9	55.9	54.8	55.6	52.4	3.2	53.6	54.8	50.0	17.3
サービス	50.0	48.3	43.8	48.3	50.0	52.2	50.0	50.0	50.0	50.0	55.1	51.0	51.0	51.4	50.0	53.8	53.8	0.0	50.0	51.3	50.0	9.6
その他	45.8	45.1	45.1	44.6	46.1	45.9	48.4	47.5	47.7	48.9	48.9	48.8	47.6	49.3	50.2	47.0	47.1	0.1	52.2	52.9	49.7	19.0
製造	36.4	39.9	37.7	38.3	42.9	48.6	46.6	46.4	44.9	46.7	47.3	40.5	44.4	42.9	45.2	44.3	45.0	0.7	50.4	50.0	50.4	14.4
卸売	43.5	41.8	44.3	46.3	45.0	43.6	44.2	43.7	45.8	46.3	45.0	46.5	46.7	46.8	47.8	47.8	46.7	1.1	49.1	48.2	46.7	12.9
小売	51.0	52.4	52.1	53.8	49.3	49.3	50.7	49.3	50.0	46.7	49.1	49.3	49.2	45.5	47.4	49.1	40.5	8.6	40.5	42.9	48.4	18.3
運輸・倉庫	44.1	43.4	43.1	41.9	41.0	45.8	43.6	43.8	45.5	45.1	46.9	46.2	45.2	45.4	46.1	46.1	45.1	1.0	47.9	48.2	48.9	16.0
サービス	46.7	46.6	45.8	45.7	45.4	47.9	48.2	48.5	47.9	49.5	48.2	50.3	52.2	49.9	49.9	49.8	48.9	0.9	51.0	51.1	51.4	16.5
その他	52.0	52.7	53.7	53.6	53.9	54.2	54.2	55.2	55.5	56.4	58.0	56.7	58.1	57.4	57.8	56.5	56.2	0.3	57.4	57.1	55.2	15.3
製造	58.3	60.3	59.9	57.7	59.8	61.8	64.7	60.8	60.8	60.1	60.1	64.0	60.2	62.5	62.4	61.3	60.3	1.0	62.6	63		

規模別: 大企業は2カ月連続悪化

中小企業は4カ月ぶり改善ながら微増にとどまる

規模別では、大企業(49.1)は前月比0.3ポイント減と2カ月連続で悪化。一方、中小企業(45.0)は同0.1ポイント増と4カ月ぶりに改善したものの、わずかな改善にとどまった。この結果、規模間格差は4.1ポイントと前月(4.5ポイント)から0.4ポイント縮小したものの、依然として高水準な状況が続いている。

規模別グラフ(2004年1月からの月別推移)



規模別景気DI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後
大企業	45.8	46.4	46.9	46.2	47.0	47.6	48.2	48.4	48.9	49.9	49.7	49.6	50.8	50.4	50.4	49.4	49.1	0.3	51.1	50.8	50.1
中小企業	42.2	42.3	42.4	42.0	43.0	43.6	44.5	45.2	45.3	46.0	46.1	47.0	46.8	46.0	44.9	45.0	0.1	48.4	48.0	47.4	

地域別: 10地域中4地域で前月比悪化、'東海'は3カ月ぶりに改善

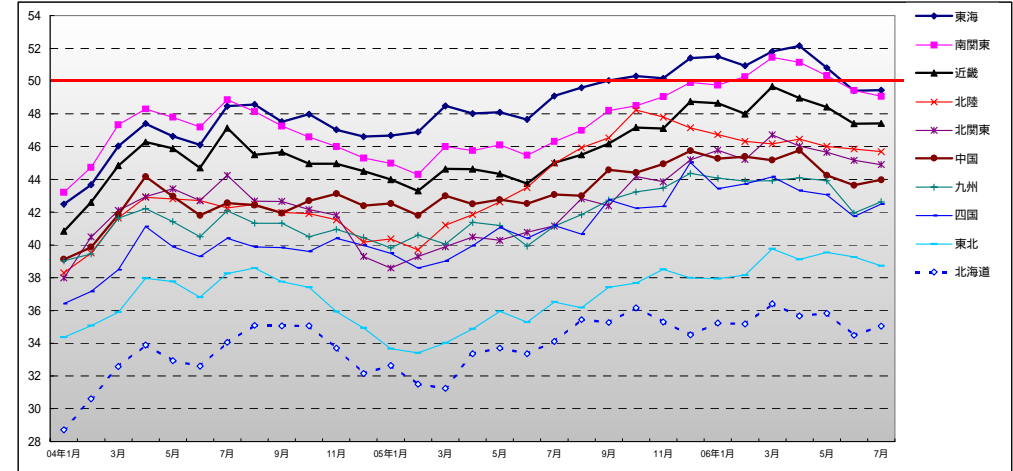
地域別では、10地域中4地域で前月比悪化した。このうち『北関東』(44.9)、『南関東』(49.1)、『北陸』(45.7)の3地域は、2カ月連続して今年に入ってからの最低水準となった。

『南関東』は、大企業の景況感悪化を受けて前月比0.3ポイント減少。前月、『東海』と並んで10地域中の最高水準となったものの、再び2番目に後退した。

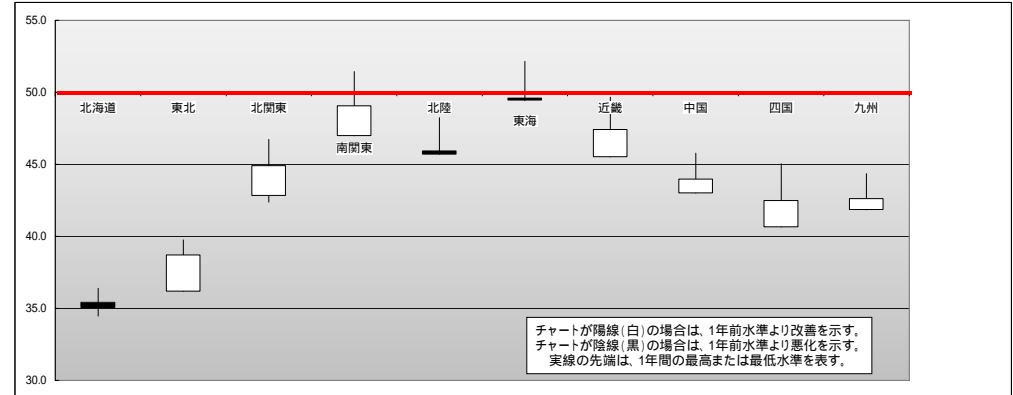
一方、『東海』(49.5)は、自動車関連業界の好調持続により同0.1ポイント増と3カ月ぶりに改善した。また、『中国』(44.0)、『四国』(42.5)、『九州』(42.6)は金利上昇前の駆け込み需要や災害復興への期待が高まった建設業界の改善などにより、いずれも改善に転じた。

『北海道』(35.0)と『東北』(38.7)の2地域が依然として30ポイント台と景況感の回復が遅れている状況に変化はなく、最低の『北海道』と最高の『東海』との景況感格差は14.5ポイントと前月(14.9ポイント)比0.4ポイント縮小したものの、依然として高水準な地域間格差が生じている。

地域別グラフ(2004年1月からの月別推移)



地域別グラフ(過去1年間の推移)



地域別景気DI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	05年3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	06年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比	3ヵ月後	6ヵ月後	1年後
北海道	31.2	33.4	33.7	33.4	34.1	35.4	35.3	36.2	35.3	34.5	35.2	35.2	36.4	35.7	35.8	34.5	35.0	0.5	42.5	40.6	41.1
東北	34.0	34.9	35.9	35.3	36.5	36.2	37.4	37.7	38.5	38.0	37.9	38.1	39.8	39.1	39.5	39.3	38.7	0.6	43.5	43.2	44.0
北関東	39.9	40.5	40.3	40.8	41.2	42.8	42.4	44.2	43.9	45.2	45.8	45.2	46.7	46.0	45.7	45.2	44.9	0.3	48.2	48.0	47.3
南関東	46.0	45.8	46.1	45.5	46.3	47.0	48.2	48.5	49.0	49.9	49.8	50.3	51.4	51.1	50.3	49.4	49.1	0.3	51.7	51.4	50.5
北陸	41.2	41.9	42.6	43.5	45.0	45.9	46.5	48.2	47.8	47.1	46.7	46.3	46.2	46.5	46.0	45.9	45.7	0.2	47.7	46.3	45.7
東海	48.5	48.0	48.1	47.7	49.1	49.6	50.0	50.3	50.2	51.4	51.5	50.9	51.8	52.2	50.8	49.4	49.5	0.1	51.2	50.6	48.6
近畿	44.6	44.6	44.3	43.8	45.0	45.5	46.2	47.2	47.1	48.8	48.7	48.0	49.7	49.0	48.4	47.4	47.4	0.0	50.3	49.9	49.4
中国	43.0	42.5	42.8	42.5	43.1	43.0	44.6	44.4	44.9	45.7	45.3	45.4	45.2	45.8	44.2	43.6	44.0	0.4	47.1	46.6	45.3
四国	39.0	39.9	41.1	40.4	41.2	40.6	42.8	42.2	42.4	45.0	43.4	43.7	44.2	43.3	43.1	41.7	42.5	0.8	45.3	46.6	46.6
九州	40.1	41.4	41.2	39.9	41.2	41.9	42.7	43.2	43.5	44.4	44.1	43.9	43.9	44.1	43.9	41.9	42.6	0.7	45.8	46.9	46.6

業界別の景況感「現在」(2006年7月調査分)

業界名	景気DI			判断理由 (= 良いと判断した理由、× = 悪いと判断した理由)
	7月	8月	9月	
農・林・水産	43.5	-	-	× 春先から天候不順が続いており、農作物の生育が一週間程度遅れている(農協)
金融	44.0	-	-	経済の動きを反映して株価も一服傾向にあり、会員権相場も売り買いの注文はあるが、価格差大きくまとにくい状況(ゴルフ会員権) × 金利グレーゾーンに対する利息返還額が増加している(消費者金融) × 金利を利息制限法まで引き下げるとの事であれば、大半の小規模業者は継続出来なくなる(消費者金融) × 客単価の下落が止まらない(ゴルフ会員権)
建設	39.6	-	-	通信ネットワーク構築関連の業界は、移動体関連の設備増強の影響で好調と言える。技術者の奪い合いも発生している(電気通信工事) 大規模再開発物件など建設需要はあるが、鋼材等の値上がりもあって採算割れが生じている(電気通信工事) × 地方の公共事業予算削減の影響が出ている。銀行も建設系の融資を控えており倒産が増加。これが落ち着くまでは回復とは言えない(識別工事) × 公共事業が主力であるが、予算減額に加え、発注も遅れているため、人員・設備・経費が過剰となっている。今後発注されても挽回は困難(土木工事)
不動産	55.5	-	-	品薄感が強く、売買は水面下で取引されるか競争入札により成約している状況で、割高となっている。投資物件としては利回りも3%台になってきているが、賃料も値上り傾向にあるので利回りは改善傾向(貸事務所) 都心を中心とした不動産業界(特に売買分野は)活況になってきているの活況感が地域にも波及してきた(不動産管理) × 住宅ローン金利の上昇や消費税率の引き上げ観測から顧客の動きが鈍くなりつつある(不動産代理・仲介)
製造	48.0	-	-	クールビズ需要が堅調な推移をみせている。また前年からジャケット、ベルト、靴といったメンズファッションの活性化が継続している(シャツ製造) 自動車業界を中心に設備投資が継続しており、現状ではまずまずの状況と判断する(産業用電気機械製造) × 天候不順により季節商材が売れない(食品製造) × 原料の値上げは避けられない。しかし顧客の理解度が少なく、価格転嫁が困難。また荷動きも長雨、冷夏等の影響があり、衣料、飲料、青果物の動きが悪い(段ボール箱製造)

業界名	景気DI			判断理由 (= 良いと判断した理由、× = 悪いと判断した理由)
	7月	8月	9月	
卸売	45.2	-	-	BRICs等の需要を背景に順調に拡大(化学製品卸) 製品価格の値上げに天井感が出ていた鋼材価格も一部製品は更に大幅に上昇(鉄鋼卸) × 雨が多かったため衣料品の販売が思わしくなかった(身の回り品卸) × 原油高騰でガソリン販売数量が伸び悩み、関連カービジネス商品も販売数量減。産業用燃料販売はコストアップ分の回収が極めて困難(石油卸) × 2006年4月施行のグリーン購入法によって、原材料の木材輸入量が大幅に減っており、量的な確保にも問題が出始めている(家具卸)
小売	40.4	-	-	× 梅雨明けの遅れによる天候不順で販売が低迷(酒小売) × 長梅雨の影響で夏物セールへの関心・需要が顕在化していない(婦人・子供服小売) × 原油値上げによる仕切り価格高騰を末端販売価格に転嫁できない。買い控え、セルフスタンドへの顧客流出も進んでいる(ガソリンスタンド) × 来店客数、電話問い合わせともに少ない。また、小型車や軽自動車へのシフトも目立つ(自動車小売)
運輸・倉庫	45.7	-	-	大口顧客を中心に取扱量は高水準で推移している(倉庫) 外航海運は中国景気もあり引き続き良い。内航海運は昨年よりも備船料は上がったが荷動きが悪くなったので、どちらともいえない(海運) × 燃料価格高騰、路上駐車取締り強化によるコストアップなどが減益の要因になっている(一般貨物運送) × 燃料の軽油が値上がりし経営を圧迫。運賃に転嫁したいが、大手荷主は、物流子会社を通じ運賃の値上げに応じようとしていない。中小零細運送業者に取引停止をちらつかせ圧力をかける厳しい状況(一般貨物運送)
サービス	50.0	-	-	金融系、電力系など自動車に続く大型案件がスタートしている(受託開発ソフトウェア) × 作業請負単価が抑えられ、年々安くなり効率が上がらない。技術者・新卒ともに、中央へ流れ採用できない(受託開発ソフトウェア) × クライアントの広告費削減が続いている(広告代理店) × 長雨の情報で客数の伸びが悪い(ホテル) × 7月は中元セールが展開され、新聞折込広告がピークを迎えるはずだったが、予想したほど伸びがなかった。長雨が続き、梅雨明けが遅れたことが要因(広告代理店)

「判断理由」については未記入可の自由回答のため、業界によっては理由がない場合もあります。

業界別の景況感「先行き」(2006年7月調査分)

業界名	景気DI			判断理由 (= 良いと判断した理由、× = 悪いと判断した理由)
	7月	8月	9月	
農・林・水産				米産牛肉の禁輸措置が7月末に解除され、8月下旬に入荷予定だが、その影響がどこまで流通価格に反映されるか不透明(酪農)
	3か月後	45.7	-	-
	6か月後	44.9	-	-
	1年後	46.4	-	-
金融				消費税率引き上げ問題などで先行き不透明(クレジットカード) 通常夏場は悪く、秋になると少し持ち直す傾向にある(ゴルフ会員権) × 来年から引き下げられる貸出上限金利の問題で今後の方向性に悩んでいる。前向きに考えて審査基準を今以上に厳しくし、保全の取れない案件やメリットの無い案件は全て断る。また、金融から撤退するという案もある。いずれにしろ一番困るのは中小企業(事業者向け貸金業)
	3か月後	48.2	-	-
	6か月後	46.9	-	-
	1年後	45.8	-	-
建設				久々の大型案件である羽田の滑走路増設プロジェクトが、2009年の使用開始を目指して近々着手されるため(管工事) ゼロ金利解除による駆け込み受注が見込めるがその後の反動も考えられる(木造建築工事)
	3か月後	43.0	-	-
	6か月後	42.7	-	-
	1年後	42.3	-	-
不動産				半年後には賃貸のシーズン到来。売買・賃貸の動きが期待できる(土地売買) 社会保険料負担増や増税等の悪影響が出始めている(不動産賃貸) × 住宅の新築需要は金利上昇の悪影響が出てくる(不動産仲介) × 現状は駆け込み需要もあるが、秋以降については、消費税率の本格的な論議が予測されるため、顧客の購入意欲がかなり減退するに思える(不動産仲介)
	3か月後	55.9	-	-
	6か月後	55.0	-	-
	1年後	54.1	-	-
製造				デジカメ一眼レフは特に需要旺盛、今しばらくニーズ継続の予定。事務機部品もコピー機のカラー化促進で需要拡大中(アルミニウム・同合金圧延) 米産牛肉の禁輸措置が7月末に解除され、8月下旬に入荷予定だが、その影響がどこまで流通価格に反映されるか不安(肉製品製造) × 中東情勢、為替の変動、原材料の高騰等の不安要素(紙製品製造) × 地方に良くなる要素はない。中央のメーカーの下請けは、仕事量はあっても原油価格高騰下でコストダウン要請は厳しい(プラスチック製品製造) × 原油、原材料の高騰に伴い、下期からの動きがつかめない(産業用機械製造)
	3か月後	50.8	-	-
	6か月後	50.3	-	-
	1年後	49.3	-	-

業界名	景気DI			判断理由 (= 良いと判断した理由、× = 悪いと判断した理由)
	7月	8月	9月	
卸売				事務機器も長引く景気低迷を受けて、5年以上の機械も多く使用されており、全体の景気回復が古い機器の入れ替えが進む(事務機器卸) 天候要因を除けば、市況は回復しているが、二極化が進んでいるので一概に良いと言い切れない(男子服卸) × 金利上昇による住宅着工の低迷懸念(建材卸) × 資材の値上げが販売価格に反映できない(建材卸) × 原油がファンドマネーも加わりどこまで騰がるか読めない。これ以上の上昇は燃転(石油から電気、LNGに切り替え)が増え市場縮小懸念(石油卸)
	3か月後	48.7	-	-
	6か月後	48.1	-	-
	1年後	47.7	-	-
小売				× ゼロ金利解除で期待が高まるが、住宅ローンなどの金利負担増を考えれば、売上増加に過度な期待はできない(食品スーパー) × 金利も上昇傾向にあり、割賦金利も上げざるを得なくなると思うので、新車の売れ行きへの悪影響が懸念される(自動車小売) × 国民負担増の政策が目白押しで期待できない(スーパーマーケット) × 元売主導による、出荷量(売上数量)優先の戦略により、乱売が続く(ガソリンスタンド)
	3か月後	44.7	-	-
	6か月後	46.5	-	-
	1年後	46.7	-	-
運輸・倉庫				団塊の世代の退職による需要が見込まれる(旅行代理店) 輸出梱包関連のため、中東関係、中国、韓国等との政治的問題等により先行き不透明である(梱包・運輸) 輸送量は若干上向くと思うので、軽油価格の上昇分を運賃に転嫁できるかどうかで良いか悪いか分かれると思う(一般貨物輸送) × 原油高騰に伴う物流コストの上昇が当面続くと思われる(港湾運送)
	3か月後	48.5	-	-
	6か月後	48.0	-	-
	1年後	48.0	-	-
サービス				u-Japan構想(2010年コピキタネットワーク社会の実現)や情報セキュリティ強化など、メーカーや金融機関の設備投資が堅調(受託開発ソフトウェア) × 介護保険改正で2006年10月になると介護度の低い人30万人のベッドが返却される可能性が高く、悪影響も大きいと予想される(リネンサプライ) × 診療報酬改正の影響で収入減少が続くと予想される(一般病院) × 金利上昇に伴う景気の冷え込みの心配がある(自動車リース) × 受託価格が減少傾向になっており、歯止めがきかない。現場要員の不足が慢性的となり、受託したくても人員不足で受託できないケースが出始めている(ビルメンテナンス)
	3か月後	52.3	-	-
	6か月後	52.3	-	-
	1年後	51.2	-	-

「判断理由」については未記入可の自由回答のため、業界によっては理由がない場合もあります。

調査先企業の属性

1. 調査対象(2万325社、有効回答企業9,852社、回答率48.5%)

(1) 地域

北海道	526	東海(岐阜 静岡 愛知 三重)	940
東北(青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島)	634	近畿(滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山)	1,552
北関東(茨城 栃木 群馬 山梨 長野)	599	中国(鳥取 島根 岡山 広島 山口)	661
南関東(埼玉 千葉 東京 神奈川)	3,377	四国(徳島 香川 愛媛 高知)	313
北陸(新潟 富山 石川 福井)	476	九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄)	774
		合計	9,852

(2) 業界(10業界51業種)

農・林・水産	23	小売	飲食料点小売業	67		
金融	128	(454)	繊維・繊維製品・服飾品小売業	40		
建設	1,252		医薬品・日用雑貨品小売業	29		
不動産	225		家具類小売業	12		
製造	飲食料品・飼料製造業		353	家電・情報機器小売業	49	
	繊維・繊維製品・服飾品製造業		115	自動車・同部品小売業	52	
	建材・家具・窯業・土石製品製造業		257	専門商品小売業	132	
	パルプ・紙・紙加工品製造業		106	各種商品小売業	69	
	出版・印刷		194	その他の小売業	4	
	化学品製造業		373	運輸・倉庫	334	
	鉄鋼・非鉄・鋳業		431	飲食店	27	
	機械製造業	425	郵便業、電気通信業	14		
	電気機械製造業	361	電気・ガス・水道・熱供給業	13		
	輸送用機械・器具製造業	77	リース・賃貸業	151		
(2,874)	精密機械・医療機械・器具製造業	74	旅館・ホテル	40		
	その他製造業	108	娯楽サービス	55		
	卸売	飲食料品卸売業	383	放送業	21	
		繊維・繊維製品・服飾品卸売業	205	メンテナンス・整備・検査業	120	
		建材・家具・窯業・土石製品卸売業	400	広告関連業	151	
		紙類・文具・書籍卸売業	115	情報サービス業	340	
		化学品卸売業	315	(1,337)	人材派遣・紹介業	29
		再生资源卸売業	13		専門サービス業	178
		鉄鋼・非鉄・鋳業製品卸売業	359		医療・福祉・保健衛生業	65
		機械・器具卸売業	1,008		教育サービス業	16
その他の卸売業		407	その他サービス業		117	
		その他	20			
		合計	9,852			

(3) 規模

大企業	2,372	24.1%
中小企業	7,480	75.9%
合計	9,852	100.0%
うち上場企業	(394)	(4.0%)

2. 調査事項

- ・景況感(現在、3カ月後・6カ月後・1年後)
- ・経営状況(売り上げ、生産・出荷量、仕入れ・販売単価、在庫、設備稼働率、従業員数、時間外労働時間、設備投資、雇用過不足感)および金融機関の融資姿勢について
- ・ゼロ金利解除に対する企業の意識調査

3. 調査時期・方式

2006年7月21日～31日(インターネットリサーチ方式)

DI(景気動向指数)について

調査目的・調査項目

TDB 景気動向調査は、「国内景気の実態把握」を主目的として、各業界の現況・先行きに関する判断や各企業の業績・環境など、企業活動全般に関する調査項目について全国2万社以上を対象に月次で実施する統計調査(ビジネス・サーベイ)で、2002年5月から実施している。

調査先企業の選定

調査先企業は全国全業種、全規模を対象とし、調査協力の承諾が得られた企業を調査先としている。

DI算出方法

DI(ディフュージョン・インデックス Diffusion Index)は、調査先企業による7段階の判断に、それぞれ下表カッコ内の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。

非常に悪い (0)	悪い (1/6)	やや悪い (2/6)	どちらとも いえない (3/6)	やや良い (4/6)	良い (5/6)	非常に よい (6/6)
0	16.7	33.3	DI=50 判断の 分かれ目	66.7	83.3	100

50を境にそれより上であれば「良い」超過、下であれば「悪い」超過を意味し、50が判断の分かれ目となる。なお、小数点第2位を四捨五入している。また、DIの算出においては、企業規模の大小に基づくウェイト付けは行っており、1社1票の単純平均の形をとっている。

企業規模区分

大・中小企業の分類については、中小企業基本法に基づいて業種別に以下のとおり設定している。

業界名	大企業	中小企業
製造業・ その他の業種*	資本金：3億円を超える または 従業員数：300人を超える	資本金：3億円以下 または 従業員：300人以下
卸売業	資本金：1億円を超える または 従業員数：100人を超える	資本金：1億円以下 または 従業員：100人以下
小売業	資本金：5千万円を超える または 従業員：50人を超える	資本金：5千万円以下 または 従業員：50人以下
サービス業**	資本金：5千万円を超える または 従業員：100人を超える	資本金5千万円以下 または 従業員：100人以下

* その他の業種には、鉱業、建設業、電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、金融・保険業、不動産業が含まれる。

** サービス業には、クリーニング業、物品賃貸業など、日本標準産業分類の大分類しサービス業に分類される業種が該当する。

©TEIKOKU DATABANK,LTD.2006

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。